

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
キベリタテハ	タテハチョウ科	濃茶に鮮かな黄の縁取 +輝く青の点列	X	X	X	北海道、本州の亜 高山帯、広葉樹林



長野県南佐久郡 8月30日 (2017年) 舗装された路面で日光浴中



長野県諏訪郡 8月24日 (2020年) 路面の碎石にとまる



長野県 8月27日 (2021年)
ダケカンバの垂蛹、ほぼキベリに間
違いなし。
突起部が黄金に輝いている



8月31日 寄生と判明、突起
の輝きは消えた



9月6日 部屋の中で見つけたコマユバチをとまらせて
撮影

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
食草 ○ 食樹							発生回数/年		越冬形態		
ダケカンバ、シラカバほか							1		成虫		

夏の終り頃、他のタテハに遅れて姿を見せますが数は多くないのでなかなかお目に掛かりません。樹液、獣糞あるいはコンクリート壁面、道路面といった人工物によくとり、年により発生数かなり変わる傾向があるようです。越冬成虫は7月頃まで見られます。

山でキベリと思しき垂蛹を見つけて持って帰り、書斎の机のコップに枝をさして木工ボンドで蛹をぶら下げて羽化を待ったことがあります。変化なく諦めていたら、数日後蛹に大きな穴が開いて中ではカラッポで寄生されていたことが判明しました。ハチの幼虫は蝶の幼虫の体内で宿主を殺さない程度にひたすら養分を摂取して漸く蝶が蛹になった頃には中味を殆ど食べ尽くして今度は自分の繭を紡いだのでしょう。ところで蛹から出たはずのハチが書斎の中で逃亡したらしく見あたりませんでした。それから5日後、机の上をへろへろになって這っているハチ（寄生蜂の一種であるコマユバチの仲間と思われる）を見つけてついに犯人確保。そこで、ハチが蛹の中から出てきたシーンを再現するため、ハチを穴あき蛹にとまらせて撮ったのが下の写真です（従って生態写真ではありません）。



長野県諏訪郡 8月26日（2022年） 珍しくマツムシソウに飛来、吸蜜していた



長野県諏訪郡 8月26日（2022年） 吸蜜中